



株式会社 昭和真空

One vanguard of the digital revolution

「光と電波」情報通信・デジタル家電を支える昭和真空



東証JASDAQ上場



報告書

平成27年4月1日～
平成28年3月31日



証券コード：6384

トップメッセージ

スマホ向け装置の受注が好調に推移し、増収増益となりました。

デバイスメーカーの次世代製品への取り組み旺盛により、依頼実験が増加。また、既存技術応用分野の開拓にも注力しました。

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度における世界経済は、下期にかけて新興国経済が失速したこと、年明け以降には為替が円高方向に推移するなど、先行きの不透明感が強まりましたが、総じて見ますと米国・欧州を中心とした先進国の堅調な需要に支えられ底堅く推移しました。また、国内経済についても、企業収益の改善などにより同様に底堅く推移しました。

当社グループを取り巻く経営環境を見ると、主にスマートフォン関連の需要が堅調に推移しました。上期好調に推移した設備投資は、下期にかけて為替動向や景況の不透明感が強まる中で、やや慎重な動きとなりました。一方、当社グループへの依頼実験や問合せが堅調に推移するなど、デバイスメーカー各社の次世代製品に向けた開発意欲は継続されました。

こうした環境の中、当社グループでは、好調な市場を捉え拡販に取り組むとともに、新しい事業の柱を育てていくために、既存技術応用分野や新規市場の開拓に注力してまいり

代表取締役
執行役員社長

小俣邦正
Kunimasa Omata



ました。また、次世代製品に向けたデバイスメーカーからの依頼実験への対応や製品開発にも積極的に取り組んでまいりました。

生産面では、上期の好調な受注を背景に生産量が増加し、高い稼働率で推移しました。また、メンテナンス性の改善や社内検査の強化による品質向上を継続してまいりました。

損益面では、量産効果や稼働率が向上したことに伴う原価低減効果やグループ一丸となって取り組んでいるコストダウン推進などにより利益率の改善が進みました。

この結果、当連結会計年度の業績は、受注高99億98百万円(前期比13.4%増)、売上高100億99百万円(同29.2%増)となりました。

損益につきましては、経常利益11億44百万円(前期比94.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益11億80百万円(同116.5%増)となりました。

既存技術応用分野の開拓の継続や製品基本性能の信頼性向上とアフターサービスの充実を図り、業績安定に向けた基盤を作ります。

今後の見通しにつきましては、世界経済は、緩やかな回復が続くことが期待されていますが、米国の金融政策正常化の影響や欧州の高い失業率や難民問題、新興国等の経済の先行きへの不安感、原油価格の下落影響等により、常に減速懸念が付きまとう不透明な状況で推移することが見込まれています。

当社グループを取り巻く事業環境を見ると、引き続きスマートフォン関連市場がデバイスメーカを牽引すると予想しています。スマートフォンの数量拡大は緩やかになりつつありますが、高速通信システムへの切り換えやマルチバンド対応のスマートフォンの増産を背景に電子部品の需要は増加すると見込んでおります。また、小型カメラモジュール市場もスマートフォンのデュアルカメラ化や車載カメラの需要増大により拡大が続くと予想しています。当社グループといたしましても、さらなる成長のために新しい技術や新しい成膜レシピを完成させ市場への展開を図ってまいります。既存技術応用分野の開拓の継続や製品基本性能の信頼性向上

とアフターサービスの充実を図ることと合わせ、業績安定企業への基盤づくりに努めてまいります。

期末配当金は、1株当たり40円とさせていただきました。

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。業績の伸長度に応じた安定的な経営基盤の確保及び財務体質の健全性の維持を勘案しつつ、安定した利益還元を継続的に実施していくことを基本方針としております。

内部留保につきましては、経営環境の変化に対応すべく、コスト競争力を高め、生産設備並びに技術開発体制の強化に備えるとともに、今後の事業展開に向け、有効に活用していく所存です。

当期(平成28年3月期)の期末配当金につきましては、1株当たり40円とさせていただきました。次期の配当につきましても、上記基本方針に従い継続的に実施可能な環境づくりに努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

トピックス

昭和真空の技術が、新しいがん治療の研究開発に貢献しています

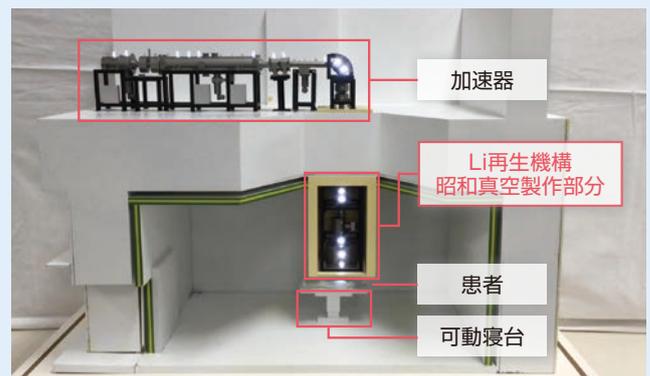
国立がん研究センターは、世界初となるリチウムターゲットの病院設置型ホウ素中性子補足療法(BNCT: Boron Neutron Capture Therapy)システムを導入する準備を進めています。

BNCTは、薬剤(ホウ素製剤)を腫瘍細胞に集積させ放射線の中性子を照射することで、腫瘍細胞に選択的に作用する画期的な放射線治療方法で、副作用が少なく、さらに一度の治療で済むなど、世界的にも注目されています。

リチウムターゲットを用いたBNCTシステムは、加速器で加速された陽子線をリチウムに衝突させることで中性子を生成するもので、人体への悪影響が大きい高速中性子の混在が少ないことが特徴として知られています。今回リチウムターゲットを採用することで、治療の安全性向上に加え、システムの小型化も可能となり、病院設置型BNCTシステムの実用化と普及の可能性が高まりました。

一方で、リチウムは融点が低いためシステム開発が難しいことや、リチウム消耗時のターゲット交換時の作業

被曝といった課題がありましたが、『リチウム自動再生システム』の開発により課題は克服されました。昭和真空が真空装置メーカーとして培ってきた真空中における搬送技術や蒸着技術を応用することで、遮蔽壁を開放することなく、消耗したリチウムターゲットを自動再生することを可能としました。



国立がん研究センター資料「病院設置型直線加速器 BNCTシステム」を基に当社加工。

『真空技術』は、食品の保存といった身近な分野から、電子部品、環境、エネルギー関連分野など、実に幅広い産業分野を支える基盤技術として利用されています。

昭和真空グループが活躍できるフィールドは無限です。 技術を磨き、新規市場・既存技術応用分野の 開拓による成長に努めます。



昭和真空グループの技術力を支える、四つの要素技術

- 1 真空を作り出すハード技術**
真空装置の設計、生産技術、製造ノウハウなどの技術。
- 2 真空中におけるロボット搬送技術**
真空槽のなかで基板を搬送し、機構内で動作する機能部品を制御する技術。
- 3 自動化制御技術**
真空装置全体をコントロールする技術。
- 4 真空中における成膜のソフトウェア技術**
基板に薄膜を形成するためのプログラミング技術。

昭和真空グループは、これらを複合的に組み合わせることで、お客様からの要望にワンストップで対応することを可能にし、真空技術を応用する装置分野で常にオリジナリティを発揮しています。

昭和真空グループは『真空技術』をキーテクノロジーとして、主に電子部品等を真空蒸着やスパッタリングやエッチングといった薄膜形成技術により加工するための真空技術応用装置を提供しています。

真空技術が支える産業・分野は多岐にわたっており、その可能性は無限と言っても過言ではありません。

昭和真空グループは、多くのユーザーへの納入実績や真空技

術が利用されている産業の裾野の広さを背景として、技術革新や新しい成膜レシピの完成による新規市場の開拓はもとより、これまで培ってきた技術が応用できる分野の開拓に努めることで、新しい事業の柱を育て成長していきます。

さらに、装置の基本性能の向上、アフターサービスの充実、コストダウンによる利益率の改善等により利益体質、業績安定企業への基盤を築いていきます。



「光と電波」

情報通信・デジタル家電を支える
社会と産業に力強く貢献しています。

キーテクノロジーは 「真空技術」

真空技術はスマートフォンやデジタルカメラなど、さまざまなハイテク最終商品を作るうえで必要不可欠ですが、真空技術で最終商品を直接製造しているわけではありません。例えばスマートフォンには根幹部品として温度補償水晶発振器(TCXO)が組み込まれていますが、その水晶発振器を作る工程で真空技術応用装置が使用されているのです。他にもカメラのレンズ、さまざまな光学フィルタ、液晶表示パネルなどを製造する際にも真空技術応用装置が使用されています。

こんな製品の製造に活躍します。

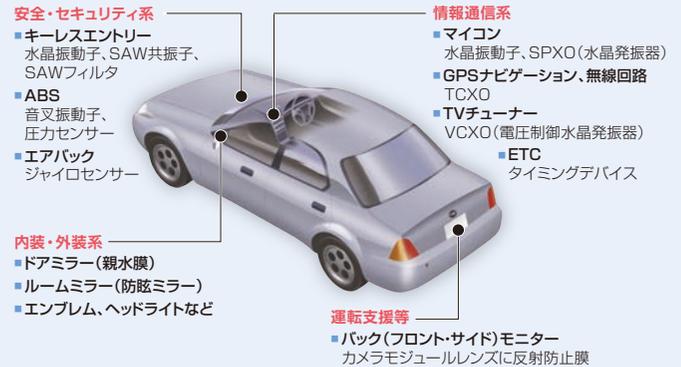
スマートフォン



タブレットPC

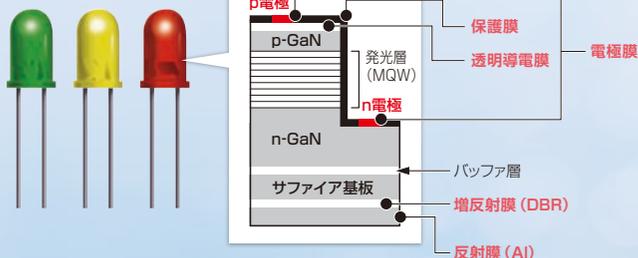


自動車



LED

LEDチップ断面構造図

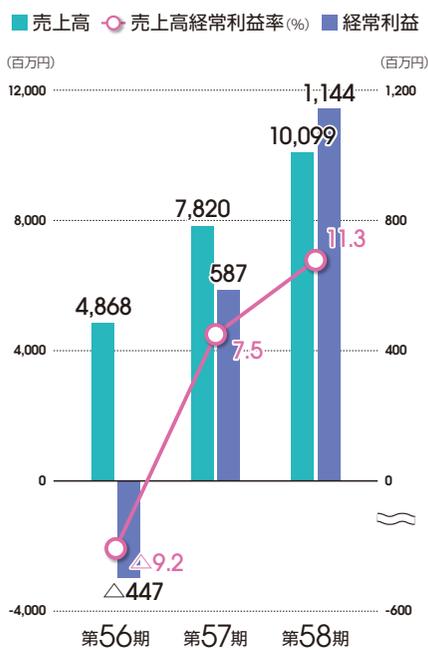


内視鏡

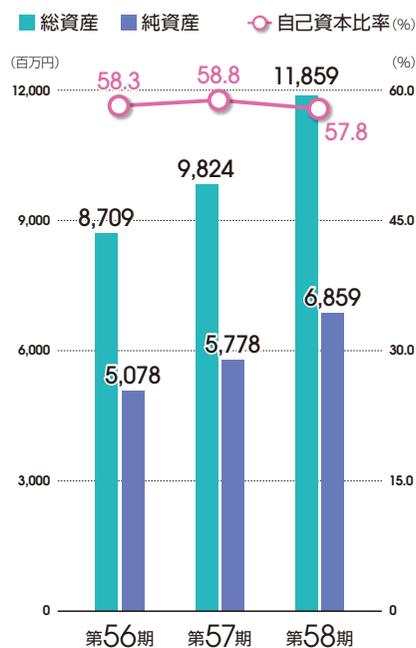


量産効果や稼働率の向上に伴い、利益率の改善が進みました。

売上高・経常利益・売上高経常利益率



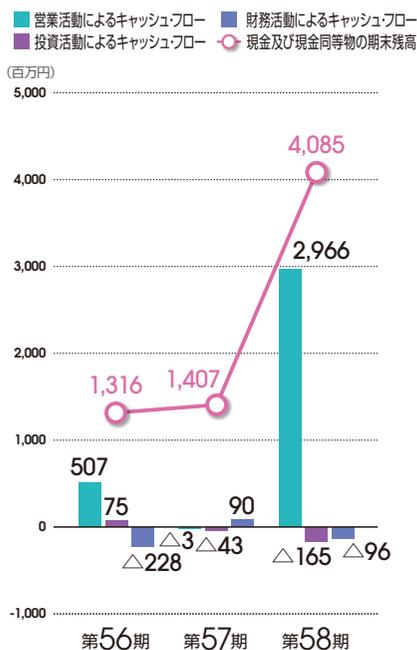
総資産・純資産・自己資本比率



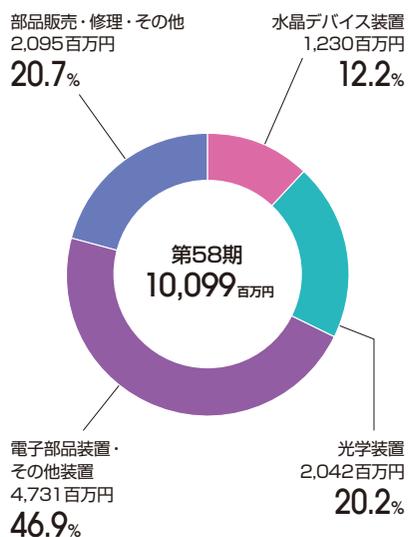
流動比率



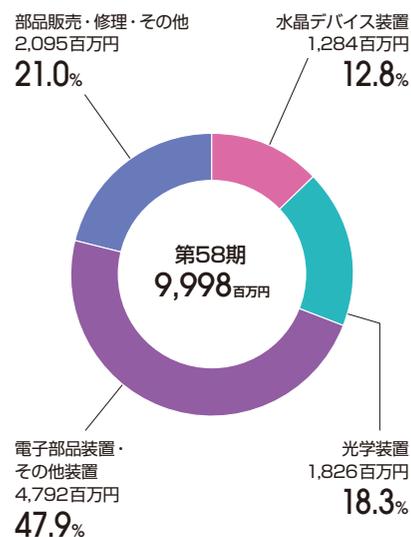
キャッシュ・フロー



品目別売上高構成比



品目別受注高構成比

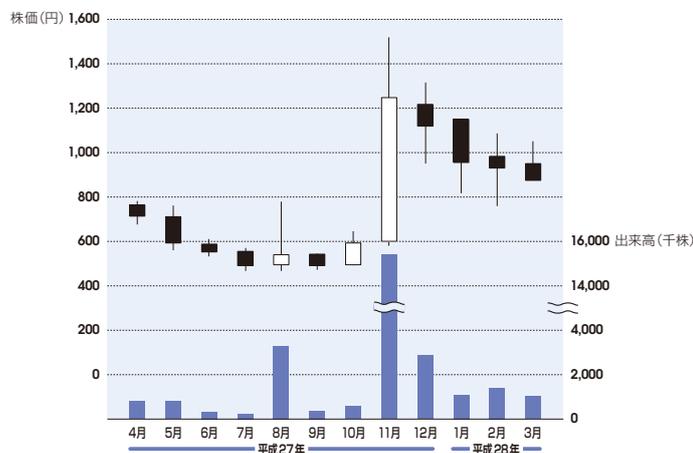


株式の状況

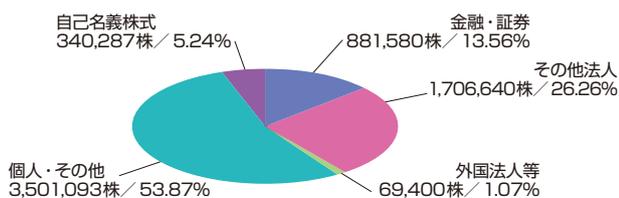
発行可能株式総数 13,800,000株
 発行済株式の総数 6,499,000株
 株主数 3,722名

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社アルバック	1,329,500	21.59
小侯邦正	567,600	9.21
有限会社小侯興産	341,440	5.54
株式会社昭和真空	340,287	—
昭和真空従業員持株会	201,752	3.27
小侯佳子	160,000	2.59
株式会社三菱東京UFJ銀行	145,000	2.35
日本生命保険相互会社	115,200	1.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	98,200	1.59
株式会社みずほ銀行	96,000	1.55

株価及び売買高の推移(月次)



所有者別株式状況(株式数)



株主メモ

株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 同送付先・連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村證券株式会社 全国本支店
 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
 基準日 3月31日
 その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め
 公告いたします。
 配当金受領株主確定日 3月31日及び中間配当金の支払を行う時は9月30日
 公告掲載方法 電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告
 によることできない場合は日本経済新聞に掲載する。
 URL <http://www.showashinku.co.jp/>

会社の概要

商号 株式会社昭和真空
 設立 1958年(昭和33年)
 資本金 2,177,105,200円
 従業員数 173名
 営業種目 水晶デバイス用、光学薄膜用、電子デバイス用などの
 総合的な真空関連装置並びに真空機器等
 真空蒸着装置、スパッタリング装置、イオンエッチング装置、
 イオンプレーティング装置、ドライエッチング・アッシング装
 置、真空冶金(溶解、熱処理、焼結、脱ガス)装置、光学薄膜
 用モニター(多色式、単色式)、IAD冷陰極イオンソース、
 液晶注入装置、その他
 取引金融機関 三菱東京UFJ銀行、横浜銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、
 八千代銀行、山梨中央銀行、城南信用金庫

事業所

本社・相模原工場
 〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
 TEL. 042-764-0321 / FAX. 042-764-0329
 大野台パーツセンター
 〒252-0331 神奈川県相模原市南区大野台二丁目27番2号

役員(平成28年6月28日現在)

代表取締役	小侯 邦正	社外取締役	末代 政輔
執行役員社長		常勤監査役	村木 由之亮
取締役執行役員常務	市川 正	社外監査役	千葉 睿一
取締役執行役員	高橋 理	社外監査役	高橋 誠一
取締役執行役員	久島 博美		
取締役執行役員	田中 彰一		

グループ会社及び関係会社

[グループ会社]

- 昭和真空機械(上海)有限公司
 - 所在 中国上海市
 - 主な事業内容 当社装置の生産
- 昭和真空機械貿易(上海)有限公司
 - 所在 中国上海市
 - 主な事業内容 当社装置・部品の販売、サービス・メンテナンス
- 株式会社エフ・イー・シー
 - 所在 埼玉県狭山市
 - 主な事業内容 マグトラン(歯のない歯車)の製造・販売

[関係会社]

- Sansei-Showa Co., Ltd. USA
 - 所在 米国オハイオ州

IRカレンダー 第59期(平成28年4月~平成29年3月)

5月 第58期 決算発表	11月 第59期 第2四半期決算発表
6月 第58回 定時株主総会 経営報告会 有価証券報告書提出	2月 第59期 第3四半期決算発表
8月 第59期 第1四半期決算発表	3月 31日 第59期 決算日

ホームページのご紹介

トップページ <http://www.showashinku.co.jp/>
 「株主・投資家の皆様へ」トップページ <http://www.showashinku.co.jp/ir/>
 ホームページでさまざまな情報をご覧いただけます。 株主の皆様には有益なIR情報はこちらをご覧ください。



ULVACGROUP

株式会社 昭和真空

本社・相模原工場

〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名3062-10
 TEL. 042-764-0321 FAX. 042-764-0329
 URL <http://www.showashinku.co.jp/>

(証券コード: 6384)